

【超ショートショート】それは運命かもしれない。2018.10更新

それは運命かもしれない。  
そう思ったのがあの日。

私は何度もあの日に帰りたいと思った。

願ったけれども、時間は戻らない。

だけど、あの人は私の記憶の中で生きている。

年もとらずに永遠に。

毎年11月になると、年をひとつ重ねていくのが、

狂おしいほどつらい。

わたしもあの人と一緒に旅することができたら。

でもあの人は行ってしまった。

私と夢の中の"あの人"を置いて。

いつか戻ってくるだろう  
という期待を持ちながら生きてきたこの10年間。

あの人は一度も、私の家のドアベルを鳴らすことはなかった。

だけど、ただ一度だけ。

あの人は帰ってきていた。  
—私の夢の中で。

触れることがどんなにできたらよかったか。  
あの人が知ることはないだろう。

わたしの中で勝手に美化された  
あの人の面影を追いかけて。

私は信じている。  
—彼が、もう一度私に会いにきてくれることを。

それは運命かもしれない 201810.txt

\*:...o○☆ \*:...o○☆ \*:...o○☆